

柏市地方創生推進交付金事業 評価シート					
番号	手賀沼地域「小さな拠点」創出事業				
担当部署	経済産業部 農政課	担当者	音喜多	連絡先	771-448
目的	手賀沼アグリビジネスパーク事業の一環で行政が整備してきた「水辺の拠点」と「わしのかや農業交流拠点」について、「水辺の拠点」は手賀沼に魅力を感じる利用者及び事業者をターゲットとした、民間サービスに支えられた活性化の拠点として、また「わしのかや農業交流拠点」は、集落と農活動に関わる都市住民等との連携により、地域課題の解決を目指す地域活動コミュニティの拠点として、それぞれが交流人口だけでなく、手賀沼利用者、都市住民、事業者、大学、市民団体等の中で、地域に継続的に関わる関係人口を取り込みながら、別の特色と役割を持つ「小さな拠点」としての発展を目的としている。				
経費概要	・委託料14,900,600円(手賀沼地域「小さな拠点」創出事業等推進委託)	交付事業に要する経費	14,306,600円		
(15) ページ	手賀沼・東部地域流動人口	基準値	70,100	目標値	84,000
本事業における重要業績評価指標	指標		指標値	実績値	達成度(%)
	指標①	「小さな拠点」に新たに加わった経済効果	3,000千円	4,878千円	162.60%
	指標②	「小さな拠点」に新たに加わったサービスの利用者数	1,800人	1,660人	92.22%
	指標③	「小さな拠点」の関係団体数(事業開始前8団体)	20団体	23団体	115.00%
	指標④	活用された耕作放棄地面積	30アール	126アール	420.00%
事業効果(自己評価)	○	①地方創生に非常に効果的であった			
		②地方創生に相当程度効果があった			
		③地方創生に効果があった			
		④地方創生に効果がなかった			
事業概要(進捗)	【時系列で記入】 R4.4～: 事業広報・PR(地域への情報発信としてチラシ配布, SNS活用) R4.4～: 中間支援組織設計検討・関係者ヒアリング・地域PRイベントの開催(手賀沼ブルーベリーサマー, 手賀沼いちごスタンプラリー, てんとこどもマルシェ, FARMERS YOGA, てんと星空観察隊, 各市民団体等の相談受付業務) R4.4～: 水辺の拠点活性化会議(ヌマベ部会 月1回オンラインで開催) R4.4～: 拠点活性化に向けたイベントの開催(生きもの観察会毎月第3日曜日開催, 手賀沼ひまわりクラブ7月, 手賀沼らみワインプロジェクト(8/7見学会, 10/12ワイナリー視察, サマーウィークエンド2022(手賀沼FC 7～8月), テガヌマ・ウィークエン2022(10/1～10/30)) R4.7～: 手賀沼ガイドブック「TEGA LOVE」制作(7月アンケート調査, 8月～農家, 掲載店舗取材, 3月～配布開始)				
	成果	令和2年度までの道の駅しよなんを中心とした事業の横展開として、令和3年度から新たに3か年の事業計画を策定し、行政で整備した「水辺の拠点」と「わしのかや農業交流拠点」をそれぞれ関係人口の増加による各拠点の活性化事業を実施した。また、手賀沼周辺における様々な市民団体や民間事業者等の活動支援や情報発信等を行う中間支援組織の構築に向けた検討を実施した。 「水辺の拠点」では、様々な活動を行っている市民団体が集まり組織された「ヌマベクラブ」のメンバーに参加していただき、毎月1回ヌマベ部会を主にオンラインで開催している。そこでは拠点の活用方法や使用上のルール、イベント内容の検討、勉強会等を実施し、市民団体等による主体的な拠点活用に向けた協議が行われている。イベントとしては毎月1回、拠点内に整備された池(ミライのち池と呼称)において、生き物観察会を実施している他、7～8月の夏休み期間中・10月に各団体から様々なプログラムを提供してもらい、それぞれサマーウィークエンド・テガヌマウィークエンドとして、SUPやヌマベを使ったヨガ体験、釣り教室、クイズラリー、ワークショップ等を実施した。これらの活動等を通し、新たな関係団体の参加や、イベント収入等を得ることができている。その他、水辺の楽校の制度を活用した環境学習プログラムの検討も始まっている。 「わしのかや農業交流拠点」では周辺の耕作放棄地を活用した「手賀沼ワインプロジェクト」の支援を通して拠点活性化に繋がっている。地元農業者やプロジェクトに賛同して集まったボランティアが集まり、ブドウ畑の整備や農作業を実施する中で、拠点の活用や関係人口が増加している他、作業自体を体験プログラム化し、外部人材の活用も検討している。また、令和4年度には農園の規模も拡大し、耕作放棄地の解消面積も増えていることから、更なる地域の合意形成を図るために、ワイナリーの視察を行い、地域としてこれから目指す将来像について共有することができた。令和4年度には実際にワインの試作品ができており、一部飲食店やホテルに卸している。 その他、中間支援組織の構築に向けては、本事業の実施主体である「手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会」の今後のあり方として、本課からの委託事業だけではなく、近隣市を含め、様々な主体と関わりを持ち、手賀沼地域全体をトータルコーディネートするまちづくり組織として活動を継続していくことを軸に、法人化等に向けた協議を実施している。そこで令和3年12月から道の駅しよなんの総合受付を「手賀沼まちづくりセンター」として、情報発信だけではなく、地域の困りごとや様々な団体の活動の相談を受ける場所としての機能を持ち合わせる場所として運営を開始した。令和4年度は道の駅しよなんの本格的な運営が始まったこともあり、近隣の農家や店舗と連携した手賀沼周遊イベント(手賀沼ブルーベリーサマー、いちごスタンプラリー)の開催やてんと星空観察隊など、道の駅を上手く活用しつつ、周辺に回遊を促す取組を進めている。また、情報発信として、手賀沼エリアをもっと好きになるガイドブック「TEGA LOVE」を、手賀沼まちづくりセンターのコンシェルジュが中心となり取材、編集を行って作成。令和5年3月から市内外に配付を開始している。			
その他特記事項	・本事業の核拠点となる道の駅しよなんは令和3年12月16日にてんと棟を拡張オープンしている。また、既存施設つばさ棟についても令和4年4月にリニューアルオープンし、毎月10万人近い方が来場しており、手賀沼地域全体の活性化の集客拠点として十分に機能している。令和4年度は本格的な運用開始の初年度であることから上記のガイドブック「TEGA LOVE」作成にあたり、道の駅しよなん来場者にアンケート調査を実施した。 その結果、特筆すべき点として、拡張前の来場者年齢層は60～70代の方が中心であったが、拡張後は30～50代のファミリーがボリューム層となっていた。また、来場者の居住地割合としては都内、千葉県内からの来場者が増加しており、こうした新たな来場者層が道の駅のみを目的地とするのではなく、各小さな拠点や周辺地域を回遊してもらえるよう、事業内容も検討している。				
柏市地方創生総合戦略評価委員会による評価					
KPIについて		意見			
記入しない	①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない	記入しない			